令和5年度 特別号　　令和6年2月

伏見南浜だより

笑顔 かがやく 南浜の子

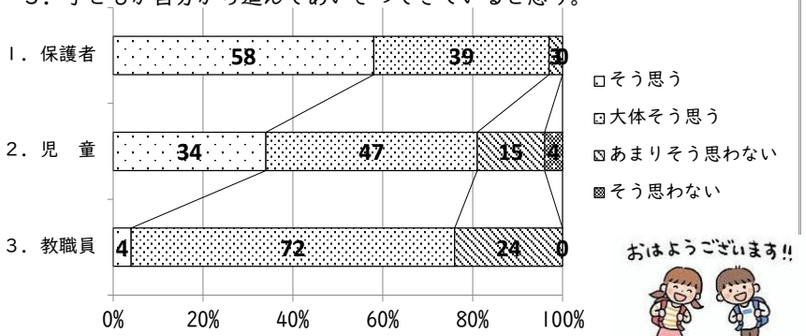
京都市立伏見南浜小学校　校長 今西 隆浩
TEL 075-611-0091　FAX 075-611-5107
minamihama-s@edu.city.kyoto.jp

令和5年度 伏見南浜小学校 第2回学校評価 アンケート結果と考察 ～生活面～

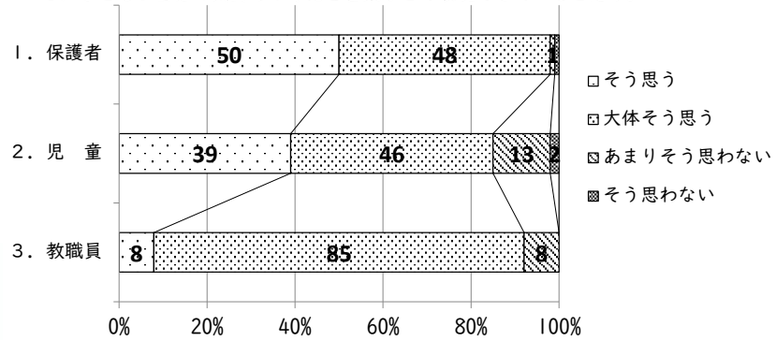
第2回 学校評価アンケート結果について

12月に行った学校評価アンケートでは、300件近くの保護者の方々からの回答をいただき、ありがとうございました。
さて、本年度の第2回目の学校評価アンケートは、第1回目に行ったアンケートと同じ内容でアンケートを実施しました。前回の結果と変化した箇所と保護者・児童・教職員の3者で捉え方に差があった箇所が見られました。また、自由記述欄では、「自ら学ぶ力を高めるためにはどんなことが大切だと思いますか。」について、保護者・教職員へご意見を伺いました。

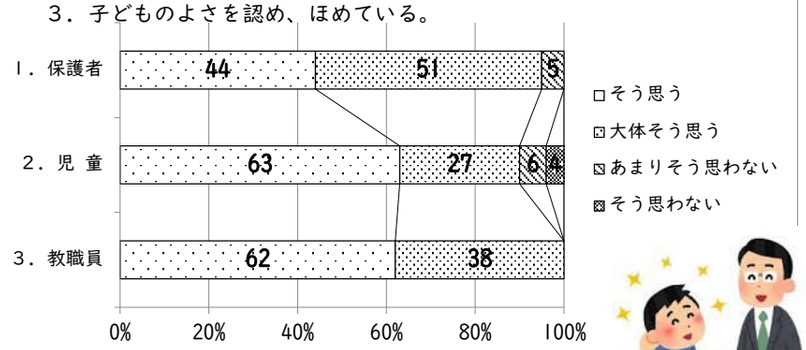
①1．我が家では、進んで挨拶するように声かけをしている。
2．じぶんからすすんで、あいさつをしている。
3．子どもが自分から進んであいさつできていると思う。



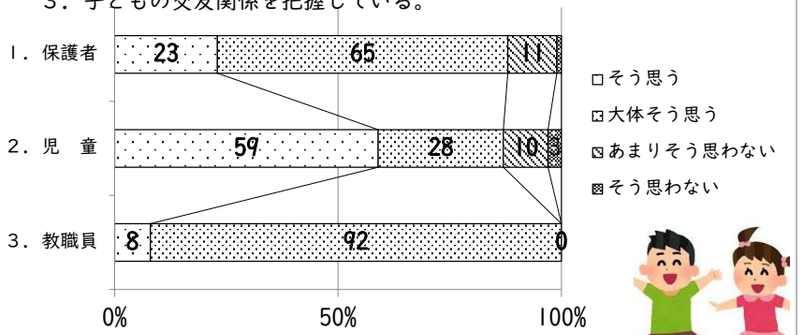
②1．我が家では、子どもに、自分の気持ちを言葉で伝えるように促している。
2．じぶんのきもちをあいてにわかるように、ことばでつたえることができている。
3．子どもが自分の気持ちや考えを言葉などで表現できていると思う。



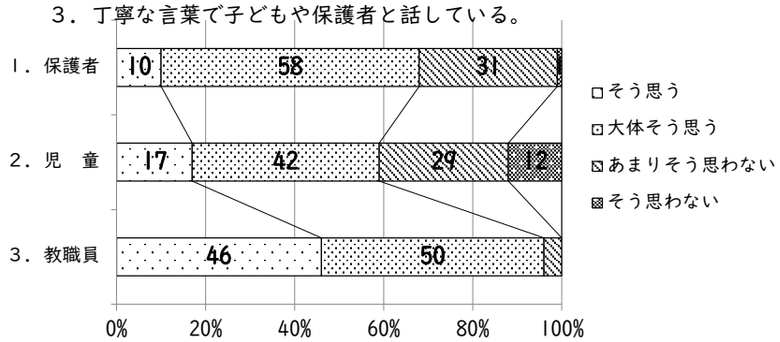
③1．我が家では、子どものよさを認め、ほめる努力をしている。
2．おうちでは、がんばったことをほめてもらえる。
3．子どものよさを認め、ほめている。



④1．我が家では、子どもの交友関係を把握している。
2．おうちでは、ともだちのことをよくはなしている。
3．子どもの交友関係を把握している。



⑤1．我が家では、丁寧な言葉で子どもと会話をしている。
2．おうちでは、ていねいなことばでおはなしをしている。
3．丁寧な言葉で子どもや保護者と話している。



昨年度より、アンケートはオンラインで実施しております。学校教育目標では、「自ら考え判断し、つながりを大切にしながら、豊かに表現する子の育成」と掲げております。デジタルとアナログのそれぞれの良さを生かして、保護者の方ともつながれればと思います。

学校HPもどうぞ→

1．生活面

①②について、教職員の子どもの評価に対する「そう思う」のポイントが少ないのは、教職員はクラスや学校全体の児童を評価していることからくると考えられます。少数でも課題がある児童がいると「そう思う」とは回答しにくいためです。

①「あいさつ」は、本校が掲げている『伏見南浜小学校のみんなで大切にしたい4つの【あ】「あいさつ」「あさごはん」「あんぜん」「ありがとう」』の一つです。今年度の1回目の数値と比べると、保護者と児童には大きな変化はありませんでした。しかし、教職員の「そう思う・大体そう思う」が52%から76%へと24ポイント増加しています。前回の結果を受け、子どもたちと一緒にあいさつをする気持ちよさやあいさつをしてもらう嬉しさについて話し合い、あいさつの大切さについて伝えてきた成果が少しずつでてきているのではないかと思います。しかし「あまりそう思わない・そう思わない」と答えている児童も19%います。あいさつの大切さに気付いているけれど、それを実行できていない子どもがいると考えられます。あいさつをできない理由には、自信がないから、あいさつを返してくれないと嫌だから、過去に嫌な経験をしたことがあるからなどが挙げられます。「なぜあいさつができないのかな？」「どうすればあいさつができるのかな？」と子どもたちと一緒に考えながら、安心して挨拶できる環境を整えていきたいです。また、「あいさつしたら気持ちいいな。」「あいさつしてもらえるとうれしくなるな。」と実感を伴うことも大切です。そのためにも、周りにいる大人が清々しく笑顔であいさつを交わしている素敵な姿を見せていきたいです。

③1回目の結果と大きな変化はありませんでした。前回と同じように保護者の「そう思う・だいたいそう思う」が95%と高い水準にあります。これは、大変うれしい結果です。認められたり、褒められたりすると自己肯定感が高まり、何事にも積極的に取り組み、新しいことに挑戦する意欲がわいてきます。そして、失敗しても、失敗を生かして次の挑戦に進みやすいなどと言われています。学校でも引き続き保護者の皆様と協力して、子どもたちを認め褒めていきたいと思います。

⑤「言葉づかい」に関しての質問についても、大きな変化はありませんでした。言葉づかいや話し方で人が受ける印象は大きく変わるといわれます。学校では、様々な考えをもたれたご家庭からお子たちを預かっております。言葉の受け取り方も子どもによって様々です。ある子にとっては気にならない言葉でも、ある子にとっては大きなショックになることもあります。棋士の羽生善治さんは「『言葉は人をつくる』だからこそ、口に出す言葉はよく考えて大切に」と娘さんに伝えられていたそうです。色々な子どもが一緒になって成長していく学校だからこそ、みんなが気持ちよいと感じる言葉づかいに引き続き気を付けていきたいです。